

SCOPE

VOL. 53

特集1 >

Think AI

AI時代に我々は何を磨くのか

特集2 >

名城大学100年の歩み

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1924 - 2024

祝!

名城大学は2026年
開学100周年を
迎えました



Think AI

AI時代に我々は何を磨くのか

生成AIが急速に普及する昨今、理工系分野の研究現場は大きな転換点を迎えています。研究効率は飛躍的に高まった一方、学修のあり方や将来のキャリアに対しては、さまざまな不安や疑問が出ているのも事実です。大学での学びにおけるAIの位置づけや存在意義、求められる倫理観などについて、理工学部の教授3名と大学院生4名を招き、座談会を行いました。

電気電子工学科
堀田一弘教授

専門分野 パターン認識
コンピュータビジョン
機械学習

メカトロニクス工学専攻
修士2年
岡本宗馬さん

研究分野
MR (Mixed Reality) を用いた
人とロボットの
協調操作・遠隔操作支援

電気電子工学専攻
博士1年
光岡日菜子さん

研究分野
コンピュータビジョン

メカトロニクス工学科
関山浩介教授

専門分野 AI・VR・AR・MR
ロボティクス

材料機能工学専攻
修士2年
伊藤天音さん

研究分野
金属材料・トライボロジー(摩擦・潤滑)・
潤滑剤

社会基盤デザイン工学専攻
修士1年
六鹿優人さん

研究分野
橋梁等の鋼構造物を構成する
継手構造の改良

社会基盤デザイン工学科
石川靖晃教授

専門分野 コンクリート工学
構造工学

02 特集1 > Think AI AI時代に我々は何を磨くのか

07 特集2 > 名城大学100年の歩み

09 — 理工学部2026 9学科と教養教育の学び

15 — 理工ロマンの旅 vol.13 マテリアルの不思議 日本刀

17 — 理工学部から羽ばたく 卒業生インタビュー

18 — 理工学部後援会の活動

19 — 理工学部後援会の活動1 フレッシュマンセミナー

21 — 理工学部後援会の活動2 ご父母のための進路セミナー

24 — 学生奨励表彰者 輝く理工学部生

25 — 理工学部後援会の活動3 地区懇談会

28 — MEIJO NEWS 2025.4 - 2026.3

29 — 理工学部後援会の活動4
家庭教育支援セミナー/家庭に活かす心理学講座

31 — 理工学部後援会の活動5 学生奨励表彰

33 — その他の活動紹介

34 — 事務局・相談窓口の紹介/令和8年度 名城大学カレンダー



加速するAI実装社会と 学び方の変化

堀田教授 最近はその学問領域でもAIの話題は尽きません。研究や産業界を見渡すと、これまで人間が目視で行っていた作業を、画像認識などのAI技術に置き換えていく動きが加速していると感じます。

石川教授 私の専門である土木分野でも、ドローンで撮影した画像や赤外線画像から、コンクリートの劣化状況をAIで解析するといった普及が始まっています。また強度計算などにプログラミングを用いますが、かつてのFortranやC言語で書かれた古いコードを、最新のPythonなどへ最適化して書き換えてくれるという活用事例もよく耳にします。

関山教授 もともとスケジューリングや最適化、画像認識といった技術は広い意味でAIの一部ですから、研究の現場では以前から使われてきました。ただ、ここ数年で「生成AI」が一般的になり、学生の皆さんにも身近になってきましたよね。



石川教授 学生のレポートなのに、これは20代では書けないという内容が出てくる場合があります。それが途中で急に稚拙になると、これは不自然なのでわかりますね。

岡本さん 使い方を誤ると実害も出ます。後輩がシステムのエラーをAIに丸投げし、返ってきた指示を何も考えずに実行した結果、環境を全部壊してしまった事件がありました。最終決定を下すのは自分なのに、それをできるだけの知識がなかったんですね。

石川教授 まさにその判断が重要ですね。AIの回答には間違いも含まれますから、それを見分けるには自分自身の基礎力が必要です。未知の出来事に直面したとき、問われるのは自分の頭で考える力です。最終的な判断ができる力を身につける必要がありますね。

光岡さん 私としてはAIが普及することへの不安が大きいです。最近AIで大量に論文を書いて投稿したと思われるケースもあって、人間が書く論文はどう対抗していけばいいのでしょうか。投稿数が増えすぎたために、査読側にもサブ的にではあります。AIを導入せざるを得なくなっているがAIを導かせざるを得なくなっている、「A-Uケがいい論文」が評価されるのかなと思うこともあります。



岡本さん そうですね。私はMR空間^{※1}を用いた人とロボットの協調操作・遠隔操作支援（ユーザビリティの向上）の研究をしています。日常的な活用としては文章作成がメインです。例えばレポートやエントリーシート^{※2}の構成を論理的に整えるツールとして使うことが一番多いですね。



伊藤さん 私は主に論文を探すときに使っています。自分の視点だけではどうしてもカバーしきれない専門外の領域や、海外の論文なども拾い上げてくれるので、得られる情報の幅が格段に広がりました。

光岡さん 先行研究を探すプロセスは本当にスムーズになりましたね。私は論文の翻訳にも活用していますが、英語の文献にあたるハードルは確実に下がりました。ただ、便利になったとはいえ、自ら読み解く力を育むことは大切だと思います。

AIに頼り過ぎず 困難に立ち向かおう

堀田教授 翻訳の話でいうと、最近は英語で国際会議の論文を書いてもらうと、非常に

堀田教授 一人が十数本も投稿してくるような異常な事態もあり、投稿数に上限を設けざるを得なくなっています。まだ最終的には人が判定していますが、AIが主になったら怖いですね。



関山教授 研究のテーマ設定と方法と、その内容に対する責任を著者が負うなら、書く作業はAIでもいいという考え方もあって、分野によって倫理観はバラバラです。ただそれでは後から剽窃^{※2}として学位が取り消されるような事態になりかねない。しかるべき学術機関に境界線を制定してもらいたいと思っていますが、AIの進化に制度設計が追いついていないのが現状です。

光岡さん 今はある程度のコーディングならAIがこなすようになり、技術者としての需要が以前より失われていると感じる部分もあります。進歩が速すぎて、数年後の自分が人間として果たせる役割が残っているのか、卒業時に世界がどう変わっているか予測できないですね。

※1: MR(複合現実)現実世界と仮想世界をリアルタイムで融合・統合する技術
※2: 剽窃(ひょうせつ) 他人の文章、図表、アイデア研究成果などを、適切な引用や出典を明記せずに、自分のものとして発表する行為

クオリティが高い。日本語で書いたものをAIで翻訳して出しているからです。ただそれが自分にとって知識を高めることにつながっているかというと、必ずしもそうではなくて、英語の論文を読んで言い回しなどを学習する機会を失っている気がしています。

六鹿さん 実際、友人のなかには、レポート課題の点数はいいのに、テストやプレゼンになるとできないというケースがあります。基礎的な知識や考察力などが身につけていないのかもしれない。先生方からみたらAIを使ったレポートだとわかりませんか？



関山教授 日頃の研究を見ていけば、研究水準からわかります。ただグレーゾーンが出てきていて、見分けがつきにくくなっているのも事実ですね。

六鹿さん 私が専攻している土木分野において、実務面でのAI活用は今後ますます便利になると思います。土木は「経験工学」の側面が強く、先人たちの膨大な知識が不可欠な分野ですが、その技術継承は大きな課題となっています。そうした知見をAIに学習させることができれば、分野全体として一歩先へ進めますし、貴重な技術を失わずに済むかもしれません。一方で教育が進まず、次世代の人材が育たないというのは不安材料ですね。

AIを使いこなすための 「感性」を育む

堀田教授 AIは強力な武器にもなりますから、自分を高める使い方をすべきでしょう。

関山教授 自分なりの仮説をしっかりと立ててそれをぶつける、というのはいいですね。私自身もAIとの議論はよくしますが、そのなかで自分の着眼点が変わっていくこともあっておもしろい。ある種批判思考というかな、クリティカルシンキングの叩き台の場とするのは、理想的な使い方ですね。
岡本さん 私も研究では自分のアイデアやロジックをぶつけて客観的に評価してもらいます。「思考の壁打ち相手」としても活用しています。自分では気づけなかった矛盾点や問題点を指摘してもらえるのは大きいですね。

六鹿さん 私の場合、学会の発表前にAIに想定質問を提案してもらって、それに対する答えを用意する、という使い方をしています。想定問答をくり返して理解を深めるのは重要な学びの機会なので、幅広い質問を受けられることはメリットです。

関山教授 生成AIっておもしろくて、ユーザーのレベルに合わせた応答をしてくるんですね。こっちは専門用語をガンガン使ってるんですけど、ちゃんとそのレベルで返ってくる。逆にきちんと言語化できていないと、曖昧な回答しか返ってきません。ある程度しっかり勉強して、知識や考察が身についた人であれば、相乗効果が出てくるのだと思います。



石川教授 AI相手のキャッチボールも利点は大きいと思いますが、大学という場では人と人とのつながりのなかで学び、自分を成長させてほしいと思っています。最近では学生同士や教員に聞くよりも先にAIに頼ってしまう傾向があり、人間関係が希薄になっているのではないのでしょうか。自分自身を高める道具として、うまくバランスをとって使いこなしてほしいですね。

関山教授 その使いこなしの根底にあるのが「感性」だと思っています。AIは効率の最適化は得意ですが、「何が重要か」「社会はどうあるべきか」という評価軸を決めるのは、人間の美意識や何か心に響くもの、フィロソフィのような、いわゆる右脳の感性です。

石川教授 何かをおもしろいと感じたり、やってみたいと心が動いたりすることですね。まさにそうです。豊かな感性があれば、おもしろさを発見できて、こだわりをもって基礎から学ぶことができるでしょう。

高まる アナログ的プロセスの価値

伊藤さん 最近、一緒に研究する後輩から質問を受けるなかで気づいたことがあって、AIに聞けば答えが返ってきますが、後輩からは疑問が返ってくるんですね。それに答えられなければ自分の知識の穴だと気づくことができる。ひとつの解決策がほしいときにはAIは便利ですが、人間同士のコミュニケーションは自分の足りない部分を見つける貴重な機会になっています。



ていかなしいといけない。もちろんいろいろ工夫はしていますが、課題と言えるかもしれません。

AI時代を生き抜く「オリジナリティ」の磨き方

関山教授 今後は、自分の言葉で明快に話ができる、ということがより求められるんじゃないでしょうか。学生同士の対話を見てみると、空気を悪くしたくないという配慮からか、お互いへのツツコミの少なさが気になります。本来、アカデミックな議論とは、透明性を保ってロジカルに突き詰めるべきものです。こうした心構えを持つことで「問いの質」は明確になって、AIに対しても主体的に責任を持って、生産的に使いこなせるようになるんじゃないかと思っています。

岡本さん 学生のうちに、ハッカソン^{※3}などの場で初対面の人と協力して目的を達成する経験を積んでおくのが大事ですね。AIと向き合うだけでは得られない、チームでのコミュニケーションや困難を乗り越えたエピソードは、就職活動での自己アピールにもつながります。

光岡さん 私もせっかく大学院まで進学したからには、自分の研究分野だけでなく関連する周辺領域も勉強したいですね。そうした学びの時間をとれるのも今しかないと思うので。

六鹿さん たしかにAIとやりとりしている、ふわっとした質問でもそれなりに答えてくれてしまいます。でも指導教員とやり合うときには確かな知識や自分の考えがなければいけないので、自分の弱点に気づけることがありますね。

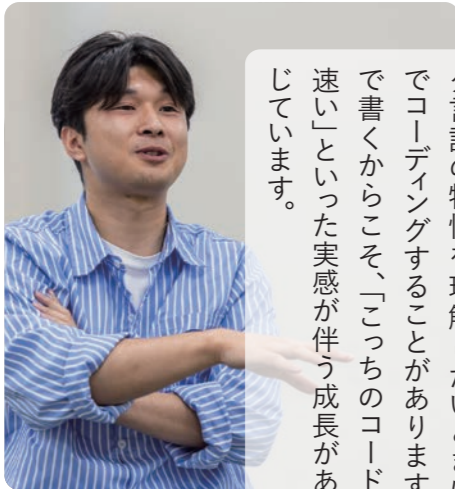
光岡さん 私は個人的に、何か知識を身につけるためには自分の手でノートに書くことが一番だと感じています。デジタル化が進んでいても、個人の成長のためにはそういったアナログなプロセスは必要なのではないでしょうか。

関山教授 私もしっかりとした本当の力を身につけるには、アナログ的な「熟成させるプロセス」が必要だと思っています。危惧しているのは、成果主義のなかで熟成の期間が棒に振られるかもしれないということです。初めからAIを使って一定の成果が出せようと、成長の機会を失いかねない。大学や企業が戦略的に熟成期間を作って、人間が一生懸命やった泥臭いことを評価できるようにしなければいけない。

堀田教授 教育側も工夫を迫られています。私の場合、レポート課題ではあらかじめ「AIと同じ答えなら点数を下げる」ということがあります。AIで調べるのは構わないですが、それは違う自分の答えを出してもらって評価します。

関山教授 いろんな分野の人とコミュニケーションをとって、広い知見を得ることは重要ですね。日本には「ハードウェアありきのものづくり」という発想が根強く、教育体系にもそのズレが表れています。今の時代、機械工学だ情報工学だと、分断して教えているようではいけない。ハードに強くてソフトがわからない、あるいはデータサイエンスに精通していてもハードの実態がわからないといった乖離^{かいり}を招いています。

堀田教授 昔ながらの言葉ですが、「よく学び、よく遊ぶ」ということでしょうか。AIに同じ質問をすれば誰もが似た回答になってしまうので、これから必要なのは個人の「オリジナリティ」です。遊びを含めていろいろな経験をしてオリジナリティを磨き、その人にしかできない発想を育んでほしいと願っています。



岡本さん 成長のために使いどころをわかまえることは重要ですね。私自身、プログラミング言語の特性を理解したいときは、自分でコーディングすることがあります。自分で書くからこそ、「こっちのコードの方が速い」といった実感が伴って成長があると感じています。

堀田教授 我々教員としては、やっぱりおもしろさを伝えて、興味を持って自分で実力を伸ばしたいと思ってもらえるように持つ

2025年4月30日、タワー75にて座談会を行いました。

※3: ハッカソン(Hackathon)は、「ハック(hack)」と「マラソン(marathon)」を掛け合わせた造語で、エンジニア、デザイナー、プランナーらがチームを組み、短期間(1日~数日)で集中して製品やサービスを開発し、その成果を競うイベント

100年の歩み

2026年、名城大学は1926年の名古屋高等理工科講習所の開設から数え、100年を迎えました。理工系高等教育機関として出発し、文理総合大学へと発展してきたその歩みを写真と共に振り返ります。

2009

平成21年
飯島澄男終身教授が文化勲章受賞
赤崎勇終身教授が京都賞受賞
板倉文忠教授がC&C賞受賞



飯島澄男終身教授

2011

平成23年
LED共同研究センター開所

2013

平成25年
理工学部の新たな拠点
研究実験棟IIが完成
応用化学科・
メカトロニクス工学科
設置



2014

平成26年
赤崎勇終身教授が
天野浩名古屋大学特別教授とともに
青色発光ダイオードの発明により
ノーベル物理学賞を受賞



赤崎勇終身教授(上)
天野浩名古屋大学特別教授(下)

研究実験棟II

2016

平成28年
名古屋市東区に
ナゴヤドーム前キャンパスを開設
フリージャーナリストの
池上彰氏が教授に就任

2017

平成29年
女子駅伝部が第35回全日本大学女子駅伝
対校選手権大会にて全国優勝
赤崎・天野ノーベル賞記念展示室が
校友会館4階にオープン

2019

令和元年
吉野彰終身教授が
リチウムイオン電池の開発により
ノーベル化学賞を受賞



吉野彰終身教授



研究実験棟III

2020

令和2年
研究実験棟IIIが完成
研究実験棟IVが完成
理工学部情報工学科が
情報工学科に学部再編成



研究実験棟IV

2026

令和8年
名城大学開学100周年記念アリーナ
(LIONS ARENA)が完成
応用化学科と材料機能工学科が統合し、
化学・物質学科へ



LIONS ARENA



カーボンナノチューブ(模型)

1988

昭和63年
国際交流センター開所

1985

昭和60年
名城大学本部棟竣工



本部棟

1976

昭和51年
理工学部後援会発足
理工学部50周年祝賀会



当時の天白キャンパス1号館

1967

昭和42年
理工学部が中村校舎から
天白校舎(現天白キャンパス)へ
移転

1966

昭和41年
学生数が1万2103人になり、
開学以来初めて1万人を超える

1960

昭和35年
創設者・田中壽一氏逝去



小澤久之亟教授

1959

昭和34年
伊勢湾台風発生
名城大学も駒方校舎を
中心に甚大な被害を被る
小澤久之亟教授主導のもと、
超音速滑走体の模型実験を
鷹来校舎で実施



伊勢湾台風で被害を受ける駒方校舎

1954

昭和29年
薬学部設置
田中理事長・学長の独裁的運営の改善を
訴えた名城大学紛争が勃発



当時の学生



当時の駒方校舎

1950

昭和25年
学部増設のため、
昭和区駒方町の土地・建物を
校舎として利用

1949

昭和24年
名古屋専門学校が大学へ昇格し、
名城大学開学

1947

昭和22年
名古屋専門学校設置
応用物理学科、数学科の
学科構成で開校



名古屋専門学校のプレート

1942

昭和17年
名古屋市中村区新富町に
校舎を開校(中村校舎)

1937

昭和12年
名古屋高等理工科学校在
名古屋市中区不二見町
(現富士見町)に移転



田中壽一氏

1928

昭和3年
名古屋高等理工科学校開校

1926

大正15年
田中壽一氏により
現在の中区千代田3丁目に
名古屋高等理工科講習所開設

先端研究の進化

1995

平成7年
都市情報学部設置

1991

平成3年
飯島澄男終身教授
(当時は非常勤講師)が
カーボンナノチューブを発見

1996

平成8年
第38回全日本学生ハンドボール選手権
大会でハンドボール部が全国優勝

1999

平成11年
先端技術研究センター開所

2000

平成12年
理工学部に
材料機能工学科・環境創造学科
(現環境創造工学科)等が設置

2001

平成13年
名城大学開学75周年

2002

平成14年
天白キャンパスのシンボル
タワー75が完成



タワー75

2003

平成15年
21世紀COEプログラムに
名城大学「ナノファクトリー」が採択
人間学部人間学学科設置

2004

平成16年
理工学部に情報工学科が設置

2005

平成17年
共通講義棟北が完成
名城大学短期大学部を廃止
女子駅伝部が第23回全日本大学
女子駅伝対校選手権大会で初優勝



女子駅伝部(2005年)

2007

平成19年
農学部が主に利用する
研究実験棟Iが完成



共通講義棟北・名城ホール

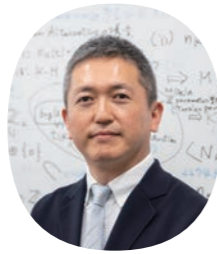
規模拡大と拠点整備

文理総合大学への道

理工系専門教育の黎明期

学科長

長郷 文和



数学の本質に向き合い
社会を支える力を育む

数学科は、名城大学の歩みと歴史を重ねてきた伝統ある学びの場です。私立大学では数少ない「数学科」として、国内屈指の規模となる定員100名・専任教員20名の体制を整え、きめ細かな指導を行っています。数学は先端技術を支える「言語」であり、テクノロジーの発展に不可欠な存在となっています。こういった背景のもと、数学科では、基礎から応用まで学びを深め、論理的思考力と課題解決力を養いながら、社会を支える力を育てています。こういった学びを強みとした卒業生は、教員や企業などのさまざまな分野で活躍しています。

研究室紹介

田中 清喜
研究室



自ら問いを立て考察を重ね、
数学の本質に迫る研究室

本研究室に配属された学生は、関数解析やポテンシャル論を軸に数学を学びます。勉強方法は「輪読」と呼ばれるスタイルで、学生が専門書を読み、自ら題材を選んだ内容を発表しながら理解を深めていきます。一つひとつの内容を丁寧に確認し、疑問点を議論しながら進めることで、理解と思考力が養われます。教員が一方的に教えることを控え、主体的に取り組む姿勢を重視し、数学に向き合い考え抜く姿勢を育てています。考え抜く姿勢を養うことで、研究の土台を確かなものとしています。

学科長

村田 英一

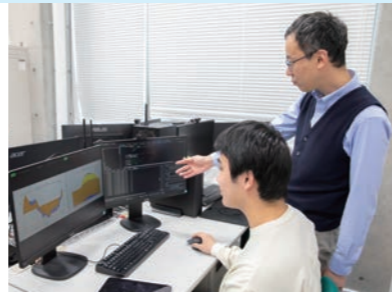


幅広い領域を修得し、
社会に貢献できる
人材を育成

電気電子工学科は、電気・電子・情報・生命分野を柱に、幅広い領域を横断して修得できることを特長としています。電力・鉄道などの社会インフラから、自動車、情報関連、半導体分野まで進路の選択肢は広く、多様な分野での活躍が期待されます。基礎から応用、さらには発展的内容へと体系的に力を養うとともに、エネルギー・電子デバイスやロボット・AI、ライフサイエンスなど、先端かつ専門性の高い研究にも取り組んでいます。産業界や社会の要請にも応えながら、将来は国内外の第一線で活躍できる人材の育成を目指しています。

研究室紹介

益田 泰輔
研究室



社会を支える
電気の流れを見える化し、
最適なエネルギーのかたちを探る

本研究室では、発電所から家庭まで電気を届ける電力システムを対象に、経済性と信頼性の向上を目指した研究に取り組んでいます。電気は貯めておくことが難しく、需要と供給のバランスを保つ必要がありますが、再生可能エネルギーの導入で電気の流れも複雑化しています。こうした課題に対し、電力システムを数理モデル化して、シミュレーションにより解析。発電量予測や蓄電池の活用により、需給バランスの維持と電気の流れの正常化を図ります。学生には電気工学の理論と実際の現象を結びつけて考えることで理解を深め、インフラを支える視点を養い、社会に活かせる力を身につけてほしいと願っています。



学部長メッセージ

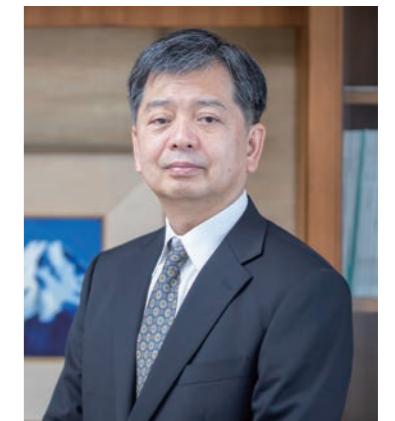
国内トップクラスの教授陣のもと、
社会の発展に貢献する優れた人材を育成

名城大学理工学部 学部長 児玉 哲司

今年100周年を迎える本学の中でも、国内トップクラスの規模を誇る理工学部では、ノーベル賞受賞者をはじめ、各分野で活躍する教授陣のもと、4,000人を超える生徒が日々学びに勤めています。

今年度からは、学生が自身の専攻分野以外にも興味を広げながら学びを深めていくことができるよう、副専攻等を充実させています。また、本学では地域の製造業を支える人材育成を大切にしており、卒業生の多くが地元の発展に貢献する様々な企業や分野で活躍しています。一方、大学院では国内トップレベルの研究に自ら参加する機会も用意され、世界的な技術者・研究者として活躍する道も開かれています。

AIの活用についても、正しく使いこなす力を身につけることを重視し、これからの時代に必要とされる土台を大学生活の中で、しっかりと育んでまいります。



教養教育長

榎本 暁



幅広い分野の学習を通じて、
思考の土台をつくる

理工学部では、教養教育科目として、語学(英語・第二外国語)・人文社会科学・物理・化学・地学・体育などを学びます。新しい分野を学ぶこともあれば、これまで学習してきた科目を違った視点やアプローチから学ぶこともあります。教養教育は、専門課程における学習の基礎をなし、また、社会人としての知識や思考の基礎を養うものです。幅広い知識を得るとともに、多様な価値観を理解し、論理的判断ができるよう、授業科目にしっかりと取り組み、自己構築に努めて欲しいと願います。

学科長

清水 憲一

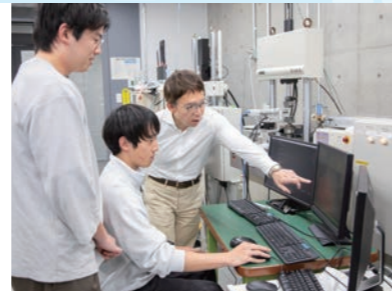


産業を支える基盤を学び、
実践力と応用力を備えた
研究者、技術者へ

本学科では、自動車や航空機、ロボット、エネルギー分野など幅広い産業を支える機械工学を体系的に学びます。「熱・流体」「材料・強度」「設計・生産」「運動力学・制御」の各分野を横断的に修得し、ものづくりを多角的に捉える力を養います。講義と実習を組み合わせ、理論と実践をバランスよく身に付け、現場で活かせる技術力の修得を目指します。3年次の「機械設計・製作」では、3人1組で小型機械やロボットの企画・設計・製作から機能検証までを一貫して経験し、課題発見力と協働による問題解決力を養い、多様な分野で活躍する人材を育成します。

研究室紹介

清水 憲一
研究室



実験・解析・評価を通じて、
材料の強さと信頼性の本質に迫る

本研究室では、実験・解析・評価を軸に、材料の強度評価に関する研究に取り組んでいます。各種試験装置や解析手法で、材料の破壊挙動や疲労特性、使用環境下での劣化挙動の解明を進めるとともに、精度の高い評価を行っています。さらに、取得データをもとに特性の関係を検証し、材料の信頼性向上につなげる研究を進めています。近年はプラスチック材料の強度評価など新たな分野にも対応し、最先端施設を活用した研究を展開。ものづくりの重要性を認識しながら実験と検証を重ね、主体的に考える姿勢を培い、機械工学分野で活かしていきます。

学科長・専攻長

竹内 哲也



化学と物理の融合で切り拓く
物質・材料研究の新たな学び

化学・物理の両側面から物質・材料を学ぶ本専攻では、原子・分子レベルでの設計・合成や、材料の構造・性質・プロセスの理解を通して、材料開発に必要な知識と技術の習得を目指します。応用化学科との統合を活かし、分野を超えて考える力を養いながら、AIや医療、カーボンニュートラルなどで重要性が高まる材料技術にも対応。半導体や機械部品、生体材料まで幅広く学修できるカリキュラムを構成し、基礎から応用へと段階的に理解を深めながら、実験を重視した教育のもと、将来第一線で活躍できる研究者・技術者としての資質を着実に育てていきます。

研究室紹介

谷川 智之
研究室



光の新しい可能性を追求し
材料の力で未来を
明るく照らす

本研究室では、光と材料の関係を深く探究し、私たちの生活をより便利で豊かにする技術の研究に取り組んでいます。マイクロLEDや光コンピューターといった次世代の光応用を支える、「新しい光」を放つ機能性材料を自ら創り出すことを目指しています。単に材料を作るだけでなく、光を用いて材料の内部を傷つけずに「見る」評価技術にも取り組み、発光効率や耐久性などの基礎特性を重視しながら研究を進めています。また学生一人ひとりの興味や適性を大切に、テーマを柔軟に発展させることで、自ら考え主体的に課題へ向き合う力を養い、材料の力で未来を明るく照らす研究と人材育成を目指しています。

学科長

富岡 隆弘



機械工学の基盤を築き、
交通分野の最前線へ

本学科では、機械工学を基盤に自動車、航空・宇宙機、鉄道車両などの交通機械に特化した教育と研究を行っています。機械工学の基礎から応用まで体系的に学び、エンジニアとして幅広く社会で活躍できる汎用性の高い知識を身に付けるとともに、上記交通機械それぞれの分野における実務経験豊富な教員から直接専門科目の講義や研究指導を受けることで交通機械に関する深い知識を修得できる点が大きな特長です。交通機械に特化して高度な専門教育を行う学科は全国的にも希少性が高く、大学院進学により専門性をさらに高めることができます。

研究室紹介

吉田 昌央
研究室



自動車の冷却設計の指針づくりを
目標に、エンジン・バッテリーの
温度管理を研究

本研究室では、自動車のエンジンやバッテリーの冷却技術を中心に研究を進めています。バッテリーは適正温度範囲が狭く、精密な温度管理が重要です。そのため、航続距離や寿命の低下、熱暴走を防ぐために、安全かつ効率よく冷やす方法の確立が求められます。研究は、冷却設計の指針づくりを目標とし、実験やデータ解析を基に進められ、正確で再現性のある計測を重視しています。同時に、原因を深く追究し、多角的に考える力を養う教育を実践しています。こうした学びを通して、自動車分野で活躍できる実力をしっかりと身につけてもらうことを願っています。

学科長・専攻長

中村 忠司



応用化学が拓く新たな可能性
豊富な実験実習による
実践的な学びを提供

今年度から応用化学科が材料機能工学科と統合されたことで、より幅広く実践的な学びが可能となりました。応用化学専攻では、有機・無機・物理化学の三領域を基盤に、原子・分子レベルから化学反応や物質の性質を理解し、精密な設計・合成によって新たな機能性物質を創出できる人材の育成を進めています。エネルギー変換や物質変換など、持続可能な社会に不可欠な分野について体系的に学び、座学と豊富な実験実習を通じて実践的な知識と技術を身につけることで、将来さまざまな分野で化学を活用できる人材の輩出を目指します。

研究室紹介

小澤 理樹
研究室



自主性を重視した
研究を重ねながら、
生物構造と機能を探究

本研究室では、自然界の仕組みを手がかりに、新しい原理やシステムを生み出す基礎研究に取り組んでいます。血管や神経回路を手本に、環境に応じて構造を変化させるネットワークの構築を目指し、材料や分野にとらわれず実験的に探究しています。学生の皆さんには、実用性に直結する成果よりも、純粋な探究心に基づく基礎的理解を大切にもらいたいと考えています。既存の思考の枠にとらわれず、自ら問いを立て、試行錯誤を重ねながら研究に臨むことで、自身の成長へとつなげてほしいと願っています。

学科長

小塩 達也



幅広い学問領域の体験を経て、
専門性ある学びを得る

本学科は、環境をキーワードに極めて広い研究分野を網羅しています。昨年度からは1年次：研究室訪問（環境創造工学理論Ⅰ・Ⅱ）、2年次：研究室での研究体験（環境創造工学演習Ⅰ・Ⅱ）、3年次：コースに分かれての研究室での演習（環境創造工学演習Ⅲ）の後に、研究室（ゼミナール）を選択という体系理解のための必修科目を設置しています。同時に、現象分析や課題解決のためのツールを使いこなす能力育成を目標に、データサイエンス関連項目を強化。これらのカリキュラムによって、より高度な領域で活躍できる技術者・研究者の育成を目指しています。

研究室紹介

広瀬 正史
研究室



衛星からの観測データを検証し、
気象の仕組みを紐解く

本研究室では、衛星データを活用し、地球規模の水循環や気候変動の解析に取り組んでいます。衛星が観測する電磁波をもとに雨の分布や強さを推定し、その精度向上や規則性の解明を進めています。約30年分の観測データの蓄積により新たな知見が得られる一方、局地的な豪雨の把握などには依然課題も残されています。研究は国際的な連携のもとで進められ、得られたデータは防災やインフラ管理など幅広い分野で活用されています。学生は身近な大気現象をテーマに主体的に研究に取り組み、データ分析を通じて課題発見力や論理的思考力を養います。

学科長

大原 賢一



ものづくりの幅広い分野に
活躍できる人材を
丁寧に育てる教育体制

本学科では、機械・電気・情報・制御技術を俯瞰的に捉え、各分野に精通した技術者・研究者の育成を目指しています。要素技術から実装までを段階的に学び、機械の分解・組立や新たな装置づくりへの挑戦など、学生自らが手を動かす能動的な学びを大切にしています。教育体制も充実しており、10名の教員が学生一人一人にメンター教員としてつき、学習指導から進路指導まできめ細やかなサポートを行っています。卒業後も、自動車、ロボット、工作機械メーカーをはじめ、ものづくりに関わる幅広い進路が広がっています。

研究室紹介

加藤 健治
研究室



医療・介護の現場に寄り添い、
人と技術をつなぐロボットの研究

本研究室では、医療・介護分野のロボット技術の研究に取り組んでいます。開発にとどまらず、現場での活用を見据え、人の動きや身体への負担を計測・解析しながら、その有効性や安全性を検証しています。さらに、センサーや情報処理技術を活用して利用者の状態・行動を把握し、現場の負担軽減や生産性向上にもつながる仕組みづくりも進めています。超高齢社会の進展を背景に、社会に求められる技術の実装を視野に入れた研究を展開し、学生はこうした実証的研究に主体的に関わりながら社会課題に向き合い、医療・福祉分野で活かせる技術と視点を養います。

学科長

生田 京子



多様な専門領域の学びを深め
より良い建築や社会を
創造できる力を身につける

建築学科では、計画系・歴史系・構造系・環境系・材料系の大きく分けて5つの分野があり、学生はまず幅広く学んだ上で、3年次の研究室配属を機に専門性を深めていきます。進路はゼネコンや住宅メーカー・設計事務所など多様で、多くの学生が一級建築士資格の取得を目指します。本学科の特徴は、教員数が多く専門分野が幅広い点と、地域連携や企業との共同研究など実践的な学びが充実していることにあります。学生には、デザイン性だけでなく構造や環境、社会との関係も踏まえたうえで、他者と協働しながらより良い建築や社会を創造できる力を身につけることを期待しています。

研究室紹介

石井 仁
研究室



実験データを解析し
室内環境による生体反応を検証

本研究室では、温熱環境や光環境など建築環境工学の視点から、人の感じ方に着目した研究を行っています。環境条件が人の快適性やストレスに与える影響を明らかにするため、実験参加者から得られる主観評価や生体データをもとに分析し、空調や照明の制御方法を導き出します。得られたデータは統計的に解析し、科学的根拠に基づく環境設計へと展開。こうした知見をもとに、温度や湿度、気流や光が人に与える影響を検証し、実社会への応用につなげています。研究を通して、データを主体的に読み解き、課題を発見・検証する力を養います。

学科長

渡辺 孝一



まちづくりを担う基礎力を修得し、
優秀なシビルエンジニアを育成

本学科では、様々な社会基盤施設の計画から設計・施工・維持管理、自然環境や景観との調和、防災・減災を学びます。そして、美しさと機能、安心・安全を兼ね備えた「まちづくり」を担う総合的能力を育成します。近年はデジタル技術の活用が進み、例えば、AIを搭載したドローンによる点検や測量の効率化も進んでいます。こうした状況に対応できるよう、基礎力とそれを応用する力を身につけるとともに、自ら考え、判断する力を養う教育を重視しています。将来の進路は、計画・立案に携わる職種と、ものづくりに携わる職種に大別され、卒業生はシビルエンジニアとして多方面で活躍しています。

研究室紹介

鈴木 温
研究室



世帯構造と都市の変化を
コンピュータ上で再現し、
都市づくりや政策に役立てる研究

本研究室では、地理情報システム（GIS）や世帯マイクロシミュレーションを用いて、個人及び世帯の動きを再現し、人口や世帯構成の変化を予測する研究を行っています。一人ひとりの進学・就職・結婚・出産・転居といったライフイベントをモデル化し、エリアの将来像を分析することにより、交通整備や学校統廃合、防災対策、団地再生といった都市政策が人々の居住や都市構造に与える影響を評価していきます。本研究は瀬戸市や富山市などで実際のまちづくりにも活用され、学生も3Dモデルの製作などを担当し、主体的に研究に参加しています。

日本刀の反りは、 切りやすく・壊れにくく・ 扱いやすい形を生んでいる

日本刀の反りは、あとから力で曲げて作られているわけではない。焼入れの過程で鋼が急激に冷やされ、内部に応力が生じることで自然に現れる変形である。ただし、その現れ方は偶然ではない。職人は焼刃土（やきばつち）の塗り分けや加熱・冷却の条件を調整しながら、どのような反りが生まれるかを見極めている。

冷え方の制御

冷え方を制御するために、加熱した鋼に焼刃土を塗り、冷却速度を調整する。焼刃土は、粘土をベースに炭や砥石の粉などを混ぜた調合材料である。

体積膨張が大きいマルテンサイト

体積膨張が少ないパーライト

刃と棟で冷却速度が異なることから、その差によって反りが生じる。

圧縮応力

引張応力

つまり日本刀は、材料を無理に変形させるのではなく、鋼が変化の際に生じる力の流れを読み取り、そのふるまいを利用して形を導いているのである。反りは、こうした「制御された自然現象」といえる。

さらにこの反りは、単なる形状にとどまらない。曲線によって刃は滑るように入り、引きながら切る動作を生み出し、少ない力で効率よく切断できる。また、衝撃を分散することで欠けや折れのリスクも抑えられる。加えて、この形状は鞘（さや）への収まりをよくなり、抜き差し動作を滑らかにするなど、扱いやすさにもつながっている。

なぜ 切れるのか

切れ味は、刃先の鋭さだけでなく、刃が変形しにくいかどうかで決まる。日本刀は、焼入れによって刃の部分で急冷し、非常に硬いマルテンサイトの組織をつくる。この組織は変形しにくいので、切る対象に対して効率よく働く。

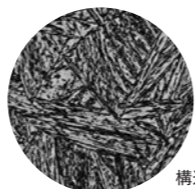
一方で、刀身全体を硬くすると欠けやすくなるため、部位ごとに冷却条件を変え、刃以外には粘りを残す構造がとられている。

つまり日本刀の切れ味は、刃の硬さと全体のしなやかさのバランスによって成り立っている。

マルテンサイト

高温の鋼を急冷すると、炭素が閉じ込められ、マルテンサイトという非常に硬い組織が生まれる。

硬



構造イメージ

刃

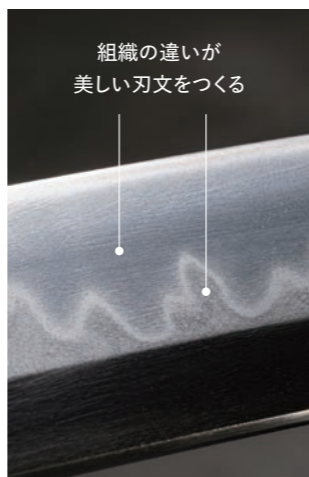
そして、なぜ 美しいのか

日本刀の美しさは、材料の構造や変化がそのまま表に現れたものといえる。

刃に見られる刃文は、焼入れによる組織の違いに由来する。急冷された部分とそれ以外では光の反射が異なり、その境界が模様として現れる。

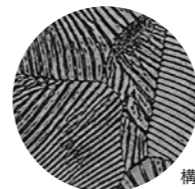
また、鍛錬によって生じる地肌も、鋼の積層構造や組織の違いが表面に現れたものだ。これらは意図的に描かれたものではなく、加工と熱処理の結果として自然に現れる模様である。

組織の違いが
美しい刃文をつくる



棟・内部

粘



構造イメージ

パーライト

高温の鋼をゆっくり冷やすと、炭素が拡散し、フェライトとセメンタイトが層状に並び、マルテンサイトより粘りのあるパーライトが形成される。

日本刀は どんな素材から できているのか

日本刀の主な材料は、鉄に炭素を加えた「鋼」である。その中でも、砂鉄（主にマグネタイト Fe_3O_4 ）を原料に、たたら製鉄によって作られる「玉鋼（たまはがね）」が用いられる。

玉鋼は現代の工業鋼と違い、炭素量や組織が均一ではなく、一つの塊の中に硬い部分と柔らかい部分が混在している。この不均質な素材を割って選び、組み合わせることで日本刀は作られる。

つまり日本刀作りは、完成された材料から成るのではなく、性質の異なる鋼を選び分け、組み合わせることからはじまる。



マグネタイトは鉄の酸化物で、砂鉄として採取される。

玉鋼は炭素量にばらつきがあり、硬くなりやすい部分は刃に、やわらかい部分は芯や棟に使い分けられる。



日本刀

その「強さ」と「しなやかさ」、
そして「美しさ」のヒミツ。

理工学部後援会の活動



令和8年度会長に思いがけない選出され、会長に就任いたしました祖父江でございます。後援会会員ご父母の代表としまして、微力ながら、会の発展に尽力していったらと考えております。

会員の皆様もご存じかと思いますが、本年2026年は名城大学開学100周年、理工学部も100周年を迎えます。また、当会も創立50周年を迎えます。今後とも、大学および理工学部の発展に寄与できたらと考えておりますので、会員各位のなご一層のご協力をお願いいたします。

さて、年度初めに、新入生のフレッシュマンセミナーを実施しておりますが、今年度も学部側のご理解もあり、1泊にて実施しました。友達作りというのが大学生活を楽しむ上で、大変重要であり、それを促進するため、宿泊を伴う研修は大変意義深いと思えます。文部科学省も「豊かな人間性を涵養し、人格の完成を目指す上では、直接の対面による学生同

学部と連絡を密にして 学生本位の活動を実施します

士や学生や教職員の間の人的交流も重要」と述べております。多くの会員各位より、ぜひとも宿泊を伴うセミナーを実施してほしいとの声も多く頂戴しており、当会ではご父母のご要望にも耳を傾け、学生本位の活動を、学部と連絡を密にして、実施してまいります。

なお、当会では専用の事務局も設置し、常勤の職員もおりますので、ご子弟に関する些細なご相談などでもぜひ後援会を利用していただきたいと思います。全国の大学の先駆けとなる活動を推進し、会員の皆さまにご満足いただける後援会を目指してまいりますので、よろしくお願いたします。



名城大学理工学部
後援会会長
祖父江 崇

● 後援会の基本姿勢

1

学生への支援第一主義

あくまでも学生への支援を第一に考えております。そして次にご父母への還元、さらに理工学部の教育・研究への援助を基本としています。

2

ご父母と大学・学部とのパイプ役

大学や学部とは連絡を密にして、協調し、ご父母と大学・学部との間のパイプ役となります。また、さまざまな行事を通じて在学中のご子弟に対する不安を解消することを図っていきます。

3

ご父母の目線での活動

常に会員であるご父母の目線で、またご父母の要望に耳を傾け、活動に反映していくことを目指しています。

4

理工学部に関係する 諸団体との連携強化

理工同窓会・技術士会等、諸団体と連携を密にして、後援会活動の多角化を図ることを目指しています。

● 後援会の組織図

令和8年度理工学部後援会専門担当委員会 会長 祖父江 崇 会長代理 神谷 浩基

企画担当委員会

役割 後援会を運営するための予算編成と事業計画を推進する

- 予算編成 ● 会則 ● 定期総会
- 地区懇談会 ● フレッシュマンセミナー
- ご父母のための進路セミナー

委員長 松浦 太造 副委員長 小久保 竜彦
委員 飯田 将行 吉本 充 平本 亨嗣
樋口 慎一 加藤 良樹 齋田 直寿 前田 純志
青山 麻里 平谷 治之 大井 雄平 杉浦 聡
三宅 信持 遠野 昭則

編集担当委員会

役割 後援会自主活動の報告並びに学部の状況を会員に周知させる

- 理工学部紹介DVDの制作について
- 後援会会報誌「Scope」の発行について
- 後援会ホームページの制作について
- 個人情報保護について

委員長 小川 智哉 副委員長 松長 克治
委員 古谷 博信 落合 伸介 千田 清隆
今泉 博章 木村 義昭 高濱 克明 竹中 充
木村 起鐘 川口 義則 稲葉 崇 西垣 鉄也
藤山 広孝 日下部 俊幸 小川 亮

福利厚生担当委員会

役割 後援会として学生に援助し得る福利厚生事業を推進する

- 学生育英救済制度実施
- 災害見舞金制度実施 ● 学生奨励制度実施
- 家庭教育支援制度実施 ● 学生課外活動援助

委員長 伊藤 一寛 副委員長 早川 信宏
委員 幅田 正明 北洞 義明 吉田 憲彦
川上 憲史 松原 功治 杉田 康司 山田 嗣人
磯谷 優作 石木 義範 田中 宏幸 水谷 吉成
久住 辰也 棚橋 淳



理工学部から羽ばたく

卒業生インタビュー

令和8年3月17日、令和7年度の卒業式がLIONS ARENAで挙行されました。

今春オープン
のLIONS ARENAで
卒業式が行われました



進学

ロボット研究をさらに深め、 モノづくりの道を模索

名城大学大学院 理工学研究科
恒川 脩悟さん(機械工学科 卒業)

大学では「自主的に考えて取り組むこと」を意識しながら、ロボットの動きを制御する研究に注力しました。その結果、自立して物事を進める責任感が身についたと思います。大学の研究室は自分のやりたいことに挑戦できる環境が整っているほか、定期的なミーティングで先生からの確かな助言を受けられる安心感もあります。こうした恵まれた環境のもとで研究をさらに深めるため、大学院へ進学します。研究を続ける中で将来進むべきモノづくりの道を見つけていきたいと考えています。



Congratulations!



就職

失敗を糧に、 世界で磨いた行動力

名古屋市役所
柳澤 千尋さん(建築学科 卒業)

所属していた建築学科では、知識の点と点が繋がる面白さを実感し、都市計画や構造、設計など幅広く学ぶことができました。また、在学中はやりたいことリストを作成・実行し、理工学部では珍しい交換留学にも挑戦しました。現地でのトラブルを一人で乗り越えた経験から、主体的に動く力と失敗を糧にする力が付きました。春からは名古屋市役所で働きます。大学での学びと行動力を活かし、名古屋で人が集う居場所づくりに貢献していきたいです。



Congratulations!



フレッシュマンセミナー

良き友と出会い
思考と議論を深め合う

本セミナーは、大学生としてのマナーや情報リテラシーなどを大学で学んだ後、三河湾沿いの宿泊施設に移り、1泊2日でグループディスカッションやプレゼンテーションなどを体験します。新たな仲間や教員、先輩とのつながりを深めながら、これから始まる大学生活の充実を促します。

対象者

理工学部
新入生
全9学科

1日目

セミナーI

大学生としてのマナーと、情報リテラシーを学ぶ

大学生の自律と成長を促すため、マナーの基本原則や他者への思いやりの大切さなどを学びました。また、SNSなどによるトラブルに巻き込まれないよう事例を交えながらインターネット・リテラシーの理解を深めました。さらに、18歳から成人年齢になることから生じるメリットやリスクなどについても触れました。

セミナーIを終え、観光バスでホテルたつき(蒲郡)へ。

出発



到着



ホテルたつき 到着

セミナーの開催目的

- 1 一つのテーマについて各グループで議論し、自分の考えを伝えるとともに、相手の意見を受け入れる協調性を養います。
- 2 共同作業を通じて意欲をもって主体的に勉学をするきっかけをつくります。
- 3 信頼できる友人関係を形成することで、大学生活への不安を払拭させます。



セミナーII はじめに

このセミナーをより有意義なものにするため、まず自己紹介をして緊張をほぐし、ディスカッションの心得などを学びました。

夕食



みんなで
おいしい息抜き

大広間でいただく夕食は、学生にとって新鮮な体験でした。



2日目

朝食



セミナーIV 積み木コンテスト

コンテスト2日目は、「海」をテーマに積み木を行いました。それぞれ個性のある積み木ができあがり、チームでものごとをつくり上げていく喜びや難しさを学びました。



セミナーII 積み木コンテスト

フランスKAPLA社のカブラという積み木を使って、様々な制約の中でいかに高く積み上げられるかというゲームを行いました。カブラは思考と創造のゲームで、チーム内でどの方法が一番高く積み上げられるのか活発に議論し作戦を練りました。カブラ日本総代理店の富安代表もセミナーにお越しいただきました。



カブラ日本総代理店 富安代表 ▶



セミナーIII 教員講話

これからの大学生活を有意義なものにしてほしいという願いから、教員の学生時代について講話いただきました。

正午には大学に戻り、無事フレッシュマンセミナーを終えました。

新入生たちの感想



セミナーIでは、今まで使う機会が少なかった、「メールの書き方」がとても参考になりました。

積み木コンテストは難しかったけれど、チームで話し合いながら積み上げる方法をいろいろ試すことができ楽しかったです。

ご父母のための進路セミナー

進路セミナースケジュール

1 全体懇談
理工学部後援会長、理工学部長、理工同窓会長のご挨拶に続いて、理工学部における最近の就職状況や大学院進学についてお話しします。



2 パネルディスカッション
キャリアセンターの担当者が就職活動の動向や大学としてのサポート体制の数々をご紹介します。昨年度はその後、4名の理工学部卒業生とIndeed Japan株式会社森田友幸氏をお招きし、就職活動のトレンドや大学院進学などについてお話しいただきました。



3 学科別懇談
学科別の会場に移動した後、学科長ご挨拶に続いて、学科の教育方針や就職状況、大学院進学についての説明を行います。ご父母からの疑問・質問にお答えする時間をご用意しています。



大学施設を見学できる
学科別ツアーも開催予定!



参加お申し込み方法

本誌に同封されている「案内パンフレット」をご覧ください。ホームページよりお申込みください。

理工学部後援会ホームページ

▶ <https://www.meijo-rikokoen.jp/>



ライブ配信も実施します。



セミナー開催当日に後援会ホームページより動画を配信します。本誌に同封されている「案内パンフレット」に記載のパスワードを入力してご覧ください。

※学科別懇談は配信しません



TOPページ→活動内容→ご父母のための進路セミナーへアクセス



ページ下段の申し込みフォームよりお申し込みください。

対象者
**理工学部
全学年の
ご父母**
(学生の参加は不可)

日時 令和8年6月27日(土) 13時～16時45分

会場 名城大学天白キャンパス
共通講義棟北1階名城ホール(N101)

目的 就職活動の現状を知る
大学院で学ぶ意義を考える

就職・大学院進学の現状を理解する絶好の機会
理工学部生の就職事情や進学についての解説、学生との接点が多い大学職員によるディスカッションなど充実したセミナーで、毎年参加されるご父母もいらっしゃいます。主な内容をご紹介します。



輝く理工学部生

後援会が主催する
学生奨励賞を受賞した
学生にインタビュー！

子どもの頃から、国語よりも算数の方が得意でした。特に高校に入ってから物理が好きになり、その中でも日々の生活のインフラとして重要な役割を果たす「電気」に興味が高まりました。将来、自分が社会に出て仕事に関わるとしたら、人々の役に立つインフラ事業の仕事がしたいと考え、電気電子工学科への進学を決めました。

大学の授業では、まずしっかりと予習を行うよう努めました。講義前に配布される「講義資料」を読み込み、疑問に思ったことはそのまま放置せず、解決するまで調べたり、先生に質問したりすることを心掛けてきました。高校までの「与えられた課題に答える」スタイルとは異なり、大学では自ら学びに行く姿勢が問われます。その点を意識して取り組んだ結果、考える力や自分なりの意見を



電気電子工学科4年
ほしのりゅうが
星野 琉雅さん

社会インフラを支える技術者を目指して。

持てるようになったことが、自身の成長だと感じています。

4年生からは、AIやディープラーニングを活用した画像処理などを研究する堀田研究室に配属されました。以前「デジタル信号処理」の講義を受けた際、電気と情報を結ぶ分野に大きな可能性を感じました。研究するならば、新しい可能性を探求できるテーマに取り組みたいと思ったのが、配属を希望した理由です。

大学卒業後は、名城大学の大学院へ進学する予定です。自分が納得できる進路は何かを考えたときに、1年間の研究だけでは物足りず、専門的な力をつけてから社会に出たいと

考えたためです。研究室では毎週「研究討論会」が開催され、学生それぞれの研究内容について議論が行われています。今は修士課程の先輩方の話を理解するだけで精一杯ですが、1年後には自分も同じ立場に立つて、討論を交わせる力を身につけたいという思いがあるので日々研究に励みたいと考えています。

将来はやはり、技術者として電気をはじめとする社会インフラを支える仕事に就きたいです。大学で得た電気工学の知識を土台に、情報系の技術も活用しながら社会に貢献していくのが目標です。

Student's Message

大学に入学した2023年はまだコロナウイルスが5類感染症に移行する前で、フレッシュマンセミナーには参加できませんでした。友人を作るせっかくの機会がなかったため、最初は不安もありましたが、今では学科の友人や研究室の仲間にも恵まれ、充実した生活を送っています。

もちろん、いつも応援してくれる両親にも感謝しています。サポートや後押しがあったからこそ今があると感じています。保護者の方にはお子さんの進む道を信じて温かく見守っていただきたいと思います。



セミナー開催の目的

就職活動の現状を知る

インターネットもES(エントリーシート)もなかった親世代に対して、現在では、活発化するインターンシップや通年採用の動き、さらにはコロナ禍で定着したオンライン面接など、就職活動は様変わりしています。親として、未知なる子ども世代の就職活動に不安を感じるのも無理はありません。そこで当セミナーでは、就職活動全般の流れと大学の就職サポート体制、企業が求める人物像や学生たちの率直な思いなど、リアルでためになる情報をお伝えしていきます。

大学院で学ぶ意義を考える

一般には、大学卒業後は就職して社会に出るものと思われがちです。しかし、大学院へ進学するという道もあります。特に理工系においては、企業側が大学院卒を重用する傾向にあることから、就職を見据えた上で大学院に進学する学生が多く存在します。名城大学は大学院理工学研究科を備え、多彩な分野で最先端の研究を展開しています。名城大学大学院では学業成績および人物優秀な学生に対して奨学制度を設けており、セミナー当日は、大学院進学についての説明も行います。

パネルディスカッション テーマ 近年の就職活動のトレンドと課題

自動車ボディーメーカー・建築会社・発電会社・精密機器メーカーで働く卒業生4名が登壇。多くが在学中にコロナウイルスを経験した世代で制限がある中で学生生活を送りました。学生時代は学内外のイベントや研究活動において物事を自分で考え、発言する力が身についたと振り返り、就職活動においては社会人と接点を持ち、実際の働く現場を体験できるインターンシップについて肯定的な発言がありました。Indeed森田氏からは親世代と子世代では就職環境が異なるため、「～すべき」といった言葉を避け、子どもが自身の納得した道を進めるようにサポートしてほしいとの助言がありました。



進路セミナーに参加いただいたご父母の声



子どもと目標を共有して支援していきたい

より具体的に情報を得たいという思いで参加しました。子供の目標達成に向けて親子でできることを準備していきたいです。

電気電子工学科2年のご父母

就活情報を親子で共有するきっかけに

インターンシップの現状やOB・OGの方の話を聞けたことでより具体的に就職活動のアドバイスができると感じました。

交通機械工学科3年のご父母

子どもの進路を決定する上で検討材料にしたい

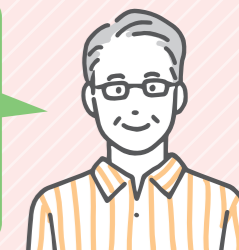
3年生からの進路選択に備え、就職と進学の両面を比較・検討するためにセミナーに参加しました。具体的な情報を得られてよかったです。

メカトロニクス学科2年のご父母

具体的に対話していきたい

これまで進路について深く話す機会は少なかったものの、コミュニケーションはしっかり取っているので、これから本人と相談しながらサポートしていきたいです。

環境創造工学科2年のご父母



地区懇談会

会場のご案内

アクセス良好な各会場にて、ご子弟の成績や進路希望などについて先生方とお話できます。

名古屋会場 10月18日(日)10:00-16:00 / 数学科 / 電気電子工学科 / 化学・物質学科(材料機能工学科・応用化学科) / 機械工学科
 10月25日(日)10:00-16:00 / 交通機械工学科 / メカトロニクス工学科 / 社会基盤デザイン工学科 / 環境創造工学科 / 建築学科



名古屋ガーデンパレス

名古屋市中区錦3丁目11-13
 Tel.052-957-1022
 「栄駅」1番出口より徒歩約5分
 「伏見駅」1番出口より徒歩約8分



浜松会場 10月4日(日)10:00-13:00
 全学科

ホテルクラウンパレス浜松

浜松市中区板屋町110-17
 Tel.053-452-5111



大垣会場 10月10日(土)10:00-13:00
 全学科

クインテッサホテル大垣

大垣市宮町1-13
 Tel.0584-84-3730



津会場 10月11日(日)10:00-13:00
 全学科

ホテルグリーンパーク津

津市羽所町700
 Tel.059-213-2111



参加お申込み方法

8月中旬に郵送されるパンフレット「地区懇談会のお知らせ」をご覧ください。ホームページよりお申込みください。

理工学部後援会ホームページ

▶ <https://www.meijo-rikokoen.jp/>

※時間ならびに懇談教員の指定はできませんので、ご了承ください。

8月中旬に
 「地区懇談会のお知らせ」
 パンフレットを
 お届けします

内容をご確認のうえ、
 ホームページより
 お申し込みください



懇談

先生方と会場で直接会って
 じっくりお話することができます。

名古屋会場

10月18日(日)

数学科 / 電気電子工学科 / 化学・物質学科
 (材料機能工学科・応用化学科) / 機械工学科

大垣会場

10月25日(日)

交通機械工学科 / メカトロニクス工学科 /
 社会基盤デザイン工学科 / 環境創造工学科 / 建築学科

津会場

10月4日(日) 全学科

10月10日(土) 全学科

10月11日(日) 全学科

先生方とじっくり話せる
 貴重な機会
 地区懇談会は、学部の先生方の協力のもとに
 実施しています。
 ご父母の皆さまと先生方が
 直接、交流を深める貴重な機会となります。



MEIJO NEWS

2025.4 - 2026.3
2025年度の名城大学のNEWSを主に理工学部を中心に振り返ります。

● 理工学部関連 ● その他

2025.04.04 令和7年度入学式挙行。学部3570人(編入学を含む)、大学院326人、合わせて3896人の新入生が入学



2025.05.12 学生の食習慣改善と物価高騰による学生支援を目的とした100円朝食が学内学食でスタート



2025.06.03 名誉教授称号記の授与式を開催。建築学科吉久教授、交通機械工学科相馬教授ら13名が授与される



2025.07.18 建築学科の寺西研究室の学生チームが日本コンクリート工学会「キング・オブ・コンクリート2025」で総合1位を獲得



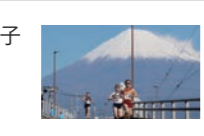
2025.09.27 香港で行われたU20東アジア陸上選手権女子駅伝部細見芽生選手(人間学部1年)が5000m優勝



2025.11.18 硬式野球部が第56回明治神宮野球大会に出場。3年ぶりのベスト4に



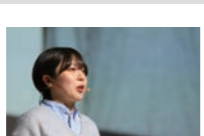
2025.12.30 女子駅伝部が2025富士山女子駅伝に出場、4位に



2026.02.02 名城大学開学100周年記念アリーナ(LIONS ARENA)が完成



2026.03.16 名城大学100周年企画REALIZE AWARD開催。理工学研究科修士2年光岡日菜子さんがグランプリに輝く



2026.03.30 AI技術の教育・研究の充実を図るため、エヌビディア合同会社と産学連携協定を締結

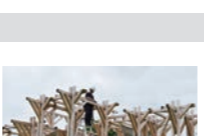
2025.04.17 飯島澄男終身教授が「アラブのノーベル賞」とも呼ばれる「キング・ファイサル国際賞」の授賞式に出席



2025.05.20 建築学科の寺西浩司教授が日本建築仕上学会学会賞論文賞を受賞



2025.06.28 建築学科の生田・谷田・佐藤研究室が「愛・地球博」20周年記念イベント「彩の回廊」に出展



2025.09.26 環境創造工学科の道正教授と研究室所属の大学院生2名が韓国国立忠南大学校建築工学科と国際交流



2025.10.26 女子駅伝部が第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に出場。3位でフィニッシュ



2025.12.26 建築学科の谷田研究室とコメダ珈琲店が研究実験棟IV学生ホールにて「次世代のくつろぎ空間」を創出



2026.01.12 開学100周年に向け、法人ロゴマークを刷新。大学新マスコットキャラクターに「名城しし丸」が決定



2026.02.04 材料機能工学科の岩谷素顕教授らのグループが応用物理学会優秀論文賞を受賞



2026.03.17 令和7年度の卒業式が名城大学開学100周年記念アリーナ(LIONS ARENA)で開催。3614人が学び舎を巣立つ



地区懇談会スケジュール

8月中旬ごろ

1 ホームページでお申し込み
お申し込み専用フォームに必要事項を記入し送信してください。



2 メールで「参加票」が届きます



3 懇談会に参加
「参加票」に記載の集合時刻に各会場へお越しください。
個別懇談／20分程度
ご子弟の所属学科の先生と懇談します。



地区懇談会に参加いただいたご父母の声

単位や成績表の仕組みを理解することができました

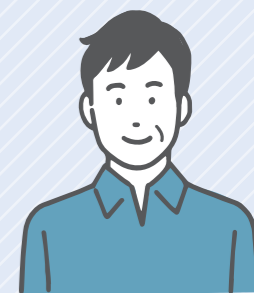
初めて懇談会に参加しました。進級に必要な単位の取り方や成績表の見方など具体的なアドバイスをいただき、学業への理解が進みました。

材料機能工学科1年のご父母

大学の就職支援体制を知り、安心しました

就職活動の現状を知るために参加しました。先生と保護者が直接関わり、子どもへの支援体制を理解する良い機会となりました。

電気電子工学科2年のご父母



大学院進学を前に進路への影響などを聞けました

大学院進学を予定しています。実態や就職への影響を知るため参加しました。曖昧だった点が先生のお話で現実的に理解できました。

機械工学科4年のご父母

話し合いの材料を得る有意義な機会でした

成績に問題は感じていませんが大学での評価が気になり参加しました。家庭での話し合いの材料を得る有意義な機会となりました。

応用化学科1年のご父母

家庭教育支援セミナー

家庭教育支援セミナー講演会

優秀な講師を大学にお招きし、気軽な講演会、フリーディスカッションなどを通じて家庭教育の重要性を認識していただけます。ご父母の皆さまが身近な相談役としてご子弟の悩みなどに対応する能力を身につけていただくことを目的としています。

毎年多くのご父母の方が参加されるセミナーは2回とも受講できますので、よりいっそう内容が深まり、参考にしていただけます。



講演テーマ 個人と集団



講師 吉澤 寛之 先生
 岐阜大学大学院 教育学研究科 教授
 学位/博士(心理学) 専門/社会心理学
 公認心理師
【主要論文】
 ◎対人環境が子どもの反社会的傾向の変化に及ぼす影響—COVID-19対策としての長期自宅待機前後の縦断的検討—
 実験社会心理学研究, 62(2), 149-168.
 吉澤寛之・笹竹佑太・酒井翔・松下光次郎・吉田琢哉・浅野良輔(2023).
 ◎全国学力・学習状況調査における児童質問紙調査の再分析—非認知能力に焦点化した検討—パーソナリティ研究, 34(3), 299-314.
 吉澤寛之・谷伊織・杉本英晴・松本明日香・寺尾香那子・田村知子(2026).

日程 令和8年7月11日(土)
 天白キャンパス 研究実験棟IV 101 教室

講演テーマ 青年期の子育て—親と子の心の課題



講師 平石 賢二 先生
 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教授
 学位・資格/博士(教育心理学)・臨床心理士、
 公認心理師
 専門/生涯発達心理学
【著書】
 ◎心の専門家養成講座第7巻 学校心理臨床実践
 ナカニシヤ出版 2018年(共編著)
 ◎心のなかはどうなっているの? —高校生の「なぜ」に答える心理学 福村出版 2023年(共編著)
 ◎育ち・学び・支えの心理学 名古屋大学出版会 2024年(共編著)
 ほかも多数

日程 令和8年7月19日(日)
 天白キャンパス 研究実験棟IV 101 教室

[講演] 13:00~14:20 [質疑応答・フリーディスカッション] 14:30~15:00 [受講料] 無料

家庭に活かす心理学講座

当講座は心理学を中心とした内容をご父母の皆さまにご提供し、それをご家庭に活かしていただき、よりいっそうの教育力向上を目指す目的で開設されました。心理学については初学者にもわかりやすく、初歩から解説します。

心理学等の学問的内容の理解をし、家庭教育に活用していただくことは重要ですが、さらにこの講座を受講したことにより、ご父母世代の「自分探し」、また子育てが終わってからの、これから続いていく質の高い人生への手掛かりとしていただけます。



担当講師	吉住 隆弘 先生 中京大学 心理学部 心理学科 教授	鈴木 亮子 先生 椋山女学園大学 人間関係学部 心理学科 教授	吉田 琢哉 先生 岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授	川島 一晃 先生 椋山女学園大学 看護学部 看護学科 准教授
	信太 寿理 先生 同朋大学 社会福祉学部 社会福祉学科 心理学専攻 准教授	後藤 綾文 先生 岐阜聖徳学園大学 教育学部 准教授	酒井 麻紀子 先生 愛知教育大学 教育学系 心理講座 助教	

日程 令和8年7月~令和9年2月 全16回 天白キャンパス研究実験棟IV101
 [受講時間] 各回13:00~16:15(休憩15分) [定員] 30名(一度当講座を受講されたご父母はお申込みできません)
 [受講料] 無料(別途教材費がかかる場合があります)



対象者
 理工学部
 全学年の
 ご父母
 (学生の参加は不可)

参加お申込み方法

本誌に同封されている「案内パンフレット」をご覧ください。ホームページよりお申込みください。



理工学部後援会ホームページ
 ▶ <https://www.meijo-rikokoen.jp/>



TOPページ→活動内容→
 家庭教育支援セミナー・心理学講座へアクセス



ページ下段の申し込みフォームより
 お申し込みください。

多感な青年期の
 心の理解を深める
 ご父母の皆さまに、家庭教育の重要性について
 再確認していただくとともに、
 ご子弟の悩みごとに対応する能力を
 身につけていただくことを目的として、
 講演会や心理学講座を実施しています。
 ぜひともご利用ください。



学生奨励表彰



学生奨励制度は、学術・スポーツ・文化の各分野においてめざましい活躍をしたと認められる理工学部在籍の学生たちを後援会が表彰するものです。令和7年度は、個人50名・6団体が選ばれました。



令和7年度 理工学部後援会 学生奨励制度表彰 (学年は令和8年2月現在のもの)

学術関係

数学科	3年 天野 創太 3年 宇佐美 優	3年 深谷 直希 3年 古川 晴登	交通機械工学科	3年 岡田 詩子 3年 川口 慶記	3年 塚崎 智也 3年 水野 愛太
電気電子工学科	3年 加藤 涼哉 3年 後藤 莉央	3年 星野 琉雅 3年 安田 翔太	メカトロニクス工学科	3年 岩男 咲歩 3年 請井 大夢	3年 澤山 美羽 3年 下野 廉矢
材料機能工学科	3年 池上 颯 3年 長田 瑞生	3年 中森勇之介 3年 林 美七海	社会基盤デザイン工学科	3年 黒岩 優祐 3年 服部 寛太	3年 横井 大和 3年 吉田 優
応用化学科	3年 青山 藍 3年 浅川 治駒	3年 桑原 優心 3年 宮崎 拓真	環境創造工学科	3年 大野 祥平 3年 神野 美咲	3年 田中 俊希 3年 村松 英弥
機械工学科	3年 鶴飼 爽平 3年 川合 隼	3年 宮城 秀汰 3年 森島 大貴	建築学科	3年 坂井 奈月 3年 須田 颯	3年 那須田知樹 3年 広瀬 春香

表彰者選出基準1

体育会 ハンドボール部

令和7年度東海学生ハンドボール春季リーグ戦 優勝
木下加衣瑠 交通機械工学科1年 野嶋 蓮 材料機能工学科2年
七部 珠黎 材料機能工学科1年 松本 涼聖 数学科2年

体育会 ライフル射撃部

2025年度中部学生スポーツ射撃選手権秋季大会男子総合第107回優勝
宮澤 宏明 建築学科3年 渡辺 駿 機械工学科4年
2025年度中部学生スポーツ射撃選手権秋季大会女子総合第50回優勝
河内 柚乃 応用化学科4年 藤原 沙羽 交通機械工学科4年

体育会 弓道部

第69回東海学生弓道秋季リーグ戦 男子一部リーグ優勝
林 隆雄 建築学科3年 佐藤 優史 交通機械工学科1年
鶴飼倫太郎 建築学科2年 竹村 慶斗 数学科1年
織間 勇伎 機械工学科2年 久野 由翔 応用化学科1年
笹木 和喜 電気電子工学科2年 辻 瑠唯 数学科1年
志知優一郎 応用化学科2年 志水 稜空 電気電子工学科1年

体育会 日本拳法部

第24回日本拳法中部オープン選手権大会 団体戦 級の部 1位
岩田 紘明 交通機械工学科4年 鈴木 優希 電気電子工学科4年

表彰者選出基準2

体育会 弓道部

第73回全日本学生弓道選手権大会3位
駒田 隼也 メカトロニクス工学科2年 岡田 琉 機械工学科4年
長江 祐俐 機械工学科1年 宮崎 圭佑 材料機能工学科4年
伊藤 亘祐 材料機能工学科3年

表彰者選出基準3

体育会 テコンドー部

PERAKTOURISM INTERNATIONAL TAEKWON-DO CHAMPIONSHIP 2025 3位
岩田 康暉 環境創造工学科1年

表彰者選出基準2

エコパワークラブ

本田宗一郎杯 Honda エコ マイレージ チャレンジ 2025 第44回 全国大会 グループIII (大学・短大・高専・専門学校生クラス) チームSPICA2位
古川 功洋 交通機械工学科3年 今泉 颯太 交通機械工学科2年
鈴木 湊都 交通機械工学科3年 仁木 悠人 交通機械工学科2年
竹谷日和太 交通機械工学科3年 前田 恭吾 交通機械工学科2年
村橋 祐紀 交通機械工学科3年 松本 眞弥 交通機械工学科2年
松本 和也 機械工学科4年 池谷 歩斗 交通機械工学科1年
大塚 達也 交通機械工学科4年 田中 穂岳 交通機械工学科2年
寶門 恭佑 交通機械工学科2年 大矢 哲平 交通機械工学科1年
伊東 宏祐 交通機械工学科2年

体育会 ヨット部

2025年度中部学生女子ヨット選手権大会
第6回中部学生シングルハンドレガッタ スナイプ級 1位
大山 未遥 社会基盤デザイン工学科3年

体育会 ライフル射撃部

2025年度中部学生スポーツ射撃選手権秋季大会男子総合第107回優勝
安藤 亮磨 電気電子工学科3年

体育会 少林寺拳法部

第60回少林寺拳法東海学生大会 女子単独演武白緑帯の部1位
坂野 小雪 社会基盤デザイン工学科1年

体育会 パーベルトレーニング部

第54回春季中部学生パワーリフティング選手権大会 男子59kg級1位
木下 瑛斗 応用化学科3年
第54回春季中部学生パワーリフティング選手権大会 男子83kg級1位
一村 俊彰 交通機械工学科4年

体育会 卓球部

2025年度東海学生卓球強化リーグ戦1位
細谷 彰吾 社会基盤デザイン工学科1年

体育会 空手道部

第59回和道会全国空手道競技大会組手個人戦一般男子有級の部第3位
長谷 侑貴 交通機械工学科3年

体育会 パーベルトレーニング部

文部科学大臣杯争奪第52回全日本学生パワーリフティング選手権大会男子59kg級1位
木下 瑛斗 応用化学科3年

その他 LINEヤフーHackU名城大学2025 Happy Hacking賞

中澤 弘都 電気電子工学科4年
堀川航太郎 電気電子工学科4年

名城大学理工学部後援会 学生奨励制度表彰規定

- 目的 この制度は、名城大学理工学部の学生で、人物・学業共に、優れた者あるいはスポーツ並びに文化活動において、大学の名声をとくに広めた者に対し、その功績をたたえるとともに、本人をはじめ他の学生の今後の励みになることを念願して設立する。
- 適用範囲 名城大学理工学部に在籍する学生。
- 審査方法及び機関 理工学部長の推薦により、理工学部後援会福利厚生委員会において審議決定する。
- 審議時期 適時
- 奨励方法 表彰状並びに副賞(記念品)とする。
- ① 表彰者選出基準

区分	資格	基準	年間引当数
学術関係	個人	3・4学年に在籍する者のうち、人物・学業共に優秀な学生で各学科ごとに推薦された者。	1学科4名以内
スポーツ関係	個人又は団体	1名城大学体育運動部に所属し、東海大学選手権大会又はリーグ戦等に於いて優勝したチーム。又は個人。 2全国的規模における競技会に於いて3位以上に相当する賞を受けた個人又は団体。 3前1・2号優勝者以外で個人賞として特別に表彰された者。 4体育会運動部主将として著しく部の発展に貢献した者。但し在学中一回限りとする。	若干名
文化関係	個人又は団体	1名城大学文化クラブに所属し、東海又は中部大会以上の競技会に於いて優勝した個人又は団体。 2前号以外で、全国的規模における競技会に於いて3位以上に相当する賞を受けた個人又は団体。	若干名

- ②上記区分以外で、会長若しくは学部長の推薦により、後援会福利厚生委員会が妥当と認められた者に対しても、上記区分に該当する者と同様に表彰することができる。
- ③前項①②共、後援会費納入会員の子弟とする。
- 7 表彰方法 表彰者氏名及び該当事項を公示し、後援会委員会の席上において表彰する。
- 8 施工期日 昭和57年4月1日付をもって施行する。
附則 平成5年10月21日 一部改正 平成10年3月24日 一部改正 平成11年6月4日 一部改正 平成25年1月30日 一部改正 以上

学生たちの健闘と成果を
こころより祝福



文化関係

こんにちは、理工学部後援会事務局です

常勤職員3名が常駐しています



林 友美
契約職員

後援会事務局には、学生さんや先生方ほか、様々な方が訪ねていらっしゃいます。皆さまのお役に立てるよう、仕事に励んでいます。



吉本 直美
会計幹事 (事務局次長)

後援会業務以外にも研究者としての一面も持っています。人間科学(博士)の学位を取得し、心理学の非常勤講師として理工学部の学生さんに講義もしています。また、自己研鑽に忙しいながらも趣味の時間も大切にし、エネルギーに活動しています。



堀 一貴
事務局長

人と話すこと、人と関わるのが大好きな、明るい性格です。笑うことを第一に考え、落語や漫才などを聴いて、皆さまに笑ってもらえる話術を勉強しています。吹奏楽については、名城大学ではおそらく一番詳しいとの自負もあります。aikoファンであり、ライブの時に派手に踊っている姿は普段からは想像できません。また熱心な中日ドラゴンズのファンです。

事務局へのお問い合わせ

公式HPのお問い合わせ専用入力フォームをご利用ください。
<https://www.meijo-rikokoen.jp/>



わからないこと、気になること、心配事は、こちらへご相談ください

ご父母の相談窓口

学生の健康相談
こころの相談

学生の進路
キャリアプランの相談

成績・履修
などの相談

奨学金
などの相談

理工学部
後援会事務局

Tel 052-831-9214 (直通)
「11号館」2階
月～金曜日 9:00～17:30

保健センター

Tel 052-838-2031 (直通)
「本部棟」1階
月～金曜日 8:50～21:00
(土曜日は17:20まで)

キャリアセンター
(進路・就職支援・インターンシップ)

Tel 052-838-2040 (直通)
「タワー75」4階
月～金曜日 8:50～17:20

学務センター
(理工学部)

Tel 052-838-2023 (直通)
「タワー75」3階
月～金曜日 8:50～17:20

学務センター
(生活支援G)

Tel 052-838-2028 (直通)
「タワー75」4階
月～金曜日 8:50～18:30
(授業・試験期間以外は17:20まで)

窓口によっては、時期により受付時間が変更になる場合があります。詳しくは名城大学HPをご確認ください。

令和8年度

名城大学
カレンダー

2026 2027
7月～3月

最新情報は名城大学HPを
ご覧ください。
<https://www.meijo-u.ac.jp/>

2026	22日	前期対面授業終了日
7月	17日、18日	遠隔授業期間(後半)/補講日(対面授業)
	23日	補講日
	24日～31日	定期試験
8月	18日、19日	オープンキャンパス(予定) (ドーム前キャンパス)
	1日、3日	定期試験(予備日:4日)
	1日、2日	オープンキャンパス(予定) (天白キャンパス)
9月	8日～17日	窓口閉鎖期間
	下旬	追・再試験(予備日)
10月	上旬	追加履修登録期間 確認(予定)
	14日	後期開始日
	14日～16日	遠隔授業期間(前半)
	17日	対面授業開始日
	下旬	9月卒業式(予定)
11月	29日	大学祭準備
	30日、31日	大学祭

11月	1日	大学祭片付け
12月	19日、20日	100周年記念事業準備
	21日	100周年記念事業式典
	22日	100周年記念事業式典片付け
	22日	入学試験(学校推薦型選抜等)
27日～1月4日		窓口閉鎖期間
2027	6日、7日、8日	遠隔授業期間(後半)/補講日(対面授業)
1月	15日	大学入学共通テスト準備(5時限～)
	16日、17日	大学入学共通テスト
	9日～23日	定期試験(予備日:25日) 名城大学附属高校入試日(予定)
2月	1日～4日	A/F/K入試(予定)
	中旬	定期試験成績発表(予定)
	下旬	B入試(予定)
	上旬・中旬	追・再試験(予備日)
3月	中旬	卒業式(予定)
	下旬	次年度在学生ガイダンス(予定)

名城大学理工学部後援会 その他の活動紹介

理工学部後援会では、本誌面でご紹介してきた諸活動のほか、様々な支援・援助活動を行っています。



理工学部後援会より 学校法人名城大学へ寄付金を贈呈

名城大学開学100周年を記念して理工学部後援会より学校法人名城大学へ寄付金を贈呈しました。贈呈式が令和8年4月25日(土)に行われた定期総会と同時に行われ、丹羽前会長より小原理事長へ目録が贈呈され、小原理事長より祖父江新会長へは感謝状が送られました。最後に小原理事長の挨拶により式が締めくくられました。



理工学部後援会 定期総会の開催

令和8年4月25日(土)15時から令和8年度名城大学理工学部後援会定期総会を開催いたしました。一般の会員ご父母には、会場またはライブ配信にてご参加いただきました。議案はすべて可決され、令和8年度の会長には、祖父江 崇氏(メカトロニクス工学科4年父母)が選出されました。



理工学部後援会 ホームページの制作

後援会活動や大学についての最新情報を迅速にご父母の皆さまに提供するため、ホームページを制作しております。「ご父母のための進路セミナー」、「地区懇談会」、「家庭教育支援セミナー」の参加お申込みもホームページから行うことができますので、ぜひご利用ください。



理工学部後援会 会報誌「Scope」の発行

後援会活動の紹介、各学科の教員および研究室の紹介、ご子弟の活動の様子、ご父母の皆さまの声を掲載しています。



理工学部 紹介動画・DVDを制作

大学の様子を撮影し、名城大学理工学部を紹介する動画を制作しています。この動画は毎年開催される地区懇談会などで上映したり、DVDをご父母に貸し出ししたりしています。



TOEIC® 受験援助

令和8年9月26日(土)に本学で実施するTOEIC-IP試験は、後援会の援助によって理工学部3年生全員が無料で受験できます。



卒業記念品贈呈

会員ご子弟の卒業生全員に対し記念品を贈呈しています。

写真：社会基盤デザイン工科学位授与式
(令和8年3月)

難関資格取得者に記念品を贈呈

学生が取得した資格の中で、難関資格を取得した学生に対し記念品を贈呈します。

学会発表の援助

学会や研究会で発表する学生へ旅費や参加費を援助しています。

学生用図書への援助

学生の勉強の参考となる図書の購入を援助しています。



Meijo University
Faculty of Science and Technology.
Supporters' Association.

SCOPE vol.53

名城大学理工学部後援会 会報誌 2026 「SCOPE VOL.53」

令和8年5月25日発行

編集 名城大学理工学部後援会 編集担当委員会

制作・印刷 株式会社ブリアートコーポレーション

発行 名城大学理工学部後援会事務局

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501

TEL : 052-832-1151 (内線2580) TEL・FAX (直通) : 052-831-9214

E-MAIL : jimukyoku@meijo-rikokoen.jp

<https://www.meijo-rikokoen.jp/>

名城大学理工学部後援会

検索



表紙イラスト：Futaba.

北海道育ち、自然や季節の移ろいの中で育まれた感覚をもとに、水彩で光や空気の揺らぎ、そこに流れる時間の気配を描いている。日常の中にあるささやかな風景や、記憶の輪郭に触れるようなイメージを描く。SCOPE53号では、研究実験棟IVと中庭をモチーフに、学生たちが憩い、行き交う風景をイラスト化しました。